

文化 第82巻 第1・2号 一春・夏一 別刷
平成30年9月28日発行

「とても」に修飾される語について

蔡 薫 婕

「とても」に修飾される語について

蔡 薰 婕

キーワード：とても 純粹程度副詞 程度副詞 程度性

1. はじめに

本稿は、純粹程度副詞「とても」の修飾先を調査し、程度修飾のありようを明らかにしようとするものである。いうまでもなく程度修飾を受ける事象は何らかの程度性を持つのだが、事象の「程度性」とは何かという問いは自明なようでいて簡単に答えられるものではない。

例えば、「今日はとても寒い」という時に、「とても」が寒さ(=どの程度寒いか)を修飾している。「寒さ」には「とても寒い」「あまり寒くない」「全く寒くない」というようにある種の段階性が認められる。「とても」「あまり～ない」「全く」などの表現は事象がどの段階にあるのかを指し示す。このように考えれば、事象の「程度」というのは、事象に含まれる^{スケール}段階性における「ある段階」のことである。そして、「程度性がある事象」というのは、^{スケール}段階性がある事象のことを指すというふうに考えることができる。

しかし、^{スケール}段階性があるのに程度修飾を受けないものもある。例えば、「今日はとても食べた」は言えない。食べた量の「多さ」も一種の^{スケール}段階性だと思われるが、「とても」と共起できない点から言えば、「寒さ」の^{スケール}段階性と「多さ」の^{スケール}段階性は性格が異なるものだと思われる。段階性は様々な種類が存在しており、程度修飾を受けるものと受けないものがあるようである。一方、程度修飾も様々な種類がある。「屋根に届くほど高く伸びた」というように、様態を用いて程度を修飾するものや、「成績が群を抜いている」というようにコロケーションでもって修飾するものもある。程度性を考えるにあたってまずは典型的なものから着手することが望ましいだろう。

事象の「程度性」とは何かという問いを答えるために、程度性がある事象を調査する必要があるが、具体的には程度修飾をする語と、程度修飾を受ける語

との関係を調査することになる。本稿は程度副詞のうち、典型的な程度修飾を主な働きとする純粹程度副詞の「とても」を取り上げて、「とても」による程度修飾を受ける語を調査する。そうすることによって、どのような語が程度修飾を受けられるかが分かる。この調査によって事象の「程度性」ひいては程度修飾のありようの一端を解明することを目指す。

2. 先行研究と調査方法

程度副詞を取り上げる森山卓郎(1983)や、仁田義雄(2002)などによれば、程度副詞は数量修飾できるか否かによって純粹程度副詞と量程度副詞に分けられる。このうち、程度修飾しかできないものを純粹程度副詞としている。この分類法では、純粹程度副詞はより典型的な程度修飾に近いと考えられる。また、「程度副詞の働きの基本は形容詞を修飾・限定すること(仁田義雄 2002:148)」と言われている。以上の点から、最も典型的な程度修飾とは「とても寒い」というような純粹程度副詞が形容詞に係るパターンだと思われる。しかし、実際には「とても」は形容詞だけではなく動詞や副詞などさまざまな語に係る。

程度副詞と動詞との修飾関係を検討した文献は森山卓郎(1985)や、佐野由紀子(1998)などがある。森山卓郎(1985)は「ある」に係るか否かによって程度副詞を分類するものであり、程度修飾を受ける動詞については具体的に検討していない。佐野由紀子(1998)は「質や状態の変化を表す主体変化動詞(p.7)」との共起関係に注目したものであるが、主体変化動詞以外の動詞については触れていない。また、蔡(2019)では、純粹程度副詞と述語の関係を検討しており、形容詞述語文(状態事象)と、動作動詞述語文(動作事象)と、変化動詞述語文(変化事象)を取り上げている。しかし、検討できた語は数語しかなく、言語運用の実態を把握するに至っていない。事象の程度性を明らかにするために、より包括的に考察する必要があると思われる。

そこで、本稿は「現代日本語書き言葉均衡コーパス通常版(以下BCCWJ)」の文字列検索を利用して「とても」が含まれる文を16,414例収集し、その中から、ランダムに2,000例を抽出し、分析を行った。分析にあたっては、「とても」がどの語に係るかを確認し、係られる語の品詞および語形を記録した。詳細は各節で述べるが、品詞ごとにさらに先行研究を参考して下位分類を行った。以下は、全体的な傾向について紹介したうえで、品詞ごとに見られる特徴を述べる。

3. 全体の傾向について

表1に全体の結果を示している。形容詞に係る場合が最も多く、1,224例で全体の61.2%を占める。次に、動詞に係る場合は30.8%で二番目多い。名詞と副詞に係る場合はいずれも5%未満であるので、比較的少ないことがいえる。

一方、「とても名詞的用法」というのは次のような場合である。

表1 係り先の品詞

係り先の品詞	実数	%
形容詞	1224	61.2%
動詞	615	30.8%
名詞	87	4.4%
副詞	58	2.9%
とても名詞的用法	15	0.8%
助動詞	1	0.1%
合計	2000	100%

(1) 憐れな遺体を見世物のごとく眺め

ているのも、とてもじゃないが耐えられなかった。(BCCWJ『青い方程式』)
「とても」を文末に置き、「じゃない」で否定するものである。「とてもじゃない」を一まとまりとして後ろの「耐えられない」に係る。「とても」に「じゃない」が後続される点から言えば名詞に近いが、「とてもです」が言えないことと、15例のすべてが「とてもじゃない」のあとに文が続いていくことからみれば、「とてもじゃない」全体がひとつ副詞的成分として機能することが言える。

一例しかなかった助動詞に係るものは次である。

(2) どんなに口をすっぱくして説明したところで、疑いぶかい警察のかたは、とても信用してくださるまい。(BCCWJ『蝶々殺人事件』)

「とても」は文末の打ち消し推量の助動詞「まい」と共起している。いわば、「とても」が打ち消しの表現と共起して程度を示す用法である。形容詞や動詞などに係る場合も打ち消しの形式と共起する場合が多く見られた。

以下は、第4節で形容詞に係る場合を、第5節で名詞・副詞を合わせて検討するが、これは名詞に係る場合と副詞に係る場合に共通点がいくつかあるためである。続いて、第6節で動詞に係る場合を検討する。

4. 形容詞に係る場合

「とても」が形容詞に係る例は最も多い割合を占めているが、「寒い」「きれい」などいわゆるイ形容詞・ナ形容詞のほかに名詞を形容詞的に使用する例が1例あった。

(3) 前述のようにビーグルはとても食いしん坊な犬種ですので、袋に表示されている説明を読み正しい分量を与え、肥満にならないように与え過ぎに注意してください。(BCCWJ『愛犬の友』)

「食いしん坊」のうしろに「な」が後接されており、形容詞として使用する意識が伺える。(3)を含めて今回得られた「とても」が形容詞に係る1,224例をさらに感情形容詞と特性形容詞に分類した。「楽しい」「悲しい」など感情を表す形容詞を感情形容詞とする。また、「白い」「魅力的」など特徴や状態を表す形容詞を特性形容詞とする。結果は表2のようになる。感情形容詞が比較的に少なく、特性形容詞が8割を占める結果である。

感情形容詞が修飾先になる例は次のようなものである。

表2 係り先が形容詞の場合の下位分類

	実数	%
感情形容詞	225	18.4%
特性形容詞	999	81.6%
合計	1224	100%

(4) 賞を受賞したことを聞いて驚きましたが、とてもうれしいです (BCCWJ『広報紙「もみじだより」』)

(4)にある「うれしい」のほか、「楽しい」「悲しい」「つらい」「苦手」「不安」などがみられた。感情形容詞が示す^{スケール}段階性は「うれしい・うれしくない」というように、感情を相対的に捉えことで生じるものだと考えられる。嬉しさの^{スケール}段階性において、「とても嬉しい・まあまあ嬉しい・あまりうれしくない・全くうれしくない」などさまざまな程度が存在すると考える。また、イ形容詞が多くみられるのも特徴である。

一方、特性形容詞が「とても」の修飾先になる例は次のようなものである。

(5) 飛黒鳥の頭部はとても柔らかく、頭部さえ確実に狙って攻撃すれば一撃で勝負が決まる。(BCCWJ『宙都』)

「とても」が柔らかさの程度を修飾している。「柔らかい・柔らかくない」というように相対的に柔らかさを捉えることによっ^{スケール}段階性が生じると考えられる。特性形容詞の例は、「柔らかい」のほか「美味しい」「おしゃれ」「フェア」「分かりやすい」「自己中心的な」などがあり、バリエーションに富む。また、「褒められ上手」のような臨時的一語の性質を持つものもある。これらも形容詞が示す特徴や状態を相対的に捉えることで^{スケール}段階性を生じさせるものだと理解できる。

従来、程度修飾をする副詞は「《相対的な》状態性の意味をもつ語に係って、其の程度を限定する副詞（工藤浩 1983:177）」であり、「〈種々の形容詞（いわゆる形容動詞をふくめて言う）と組み合わせるのが基本とする〉という形式—文法的特徴を持つ（工藤浩 1983:178）」と考えられているが、今回の調査結果はこの見解を再確認したといえよう。ちなみに、「とても」は打ち消しの形式と共起する用法があるが、係り先が形容詞の場合、打ち消しの形式と共起する用例が見当たらなかった。

5. 名詞・副詞に係る場合

これまでの程度修飾の先行研究では、名詞に係る場合あるいは副詞に係る場合については詳しく検討されたとはいえない。もっとも、副詞が名詞あるいは副詞に係る現象は副詞の機能からして特殊だと思われる。一般的に、副詞は動詞や形容詞に係り、連用修飾という文法的機能を果たす品詞をさすが、以下の例からも分かるように、「とても」は名詞や副詞と共起することがある。

(6) ジョーは目を輝かせた。文がとても金持ちだと聞いていたからだ。

(BCCWJ 『マイケル・ジャクソンの真実』)

(7) 「はい。とても意図的に、ご自分のお尻をカバンで隠して…」(BCCWJ 『恋におちた若様』)

(6)は、「とても」が名詞「金持ち」に係り、どのくらいの金持ちかを示す。また、(7)は、「とても」が副詞「意図的に」に係り、どのくらいの意図的かを示す。『日本語国語大辞典 第二版』によれば、「意図的」は形容動詞である。(7)は形容動詞の「意図的」が「意図的に」の形で「隠して」を連用修飾するのであるが、文中における文法的機能が連用修飾なので、本稿では「意図的に」を形容動詞ではなく、副詞として扱う。ほかに、「脂がとてもよくのった肉」にある「よく」のような場合も副詞として扱う。

(6)(7)にあるように、「とても」は名詞や副詞に係ってその程度を表すことがある。表1に示したとおり、全体的にいずれも5%に下回るので、用例数は多くはないが、決して違和感を持つような表現ではない。この点から考えれば、日本語の副詞の定義や位置づけについて詳しく検討する必要があるように思われるが、本稿ではこの点を議論する用意はないので、純粹程度副詞の「とても」が名詞または副詞に連用修飾する用例が見られ、2,000例のうちそれぞれ4.4%と2.9%の割合を占めることだけを指摘しておく。

ただし、形容詞や動詞に比べて名詞・副詞に係る例が少ないことから、すべての名詞または副詞が程度修飾を受けられるわけではなく、程度修飾を受けられる名詞または副詞は何らかの特徴があることが推測される。

名詞が「とても」の修飾先になる場合、2つの特徴が指摘できる。ひとつは形容詞に倣って特姓名詞と感情名詞に分けられること、もうひとつは打ち消しの形式を伴う例が6割弱占めていることである。

程度修飾を受けるには、何らかの段階性^{スケール}を有することを第1節で述べたが、つまり「とても」による程度修飾を受ける名詞にも何らかの段階性^{スケール}を有することになる。さらに、係り先が形容詞である場合を検討した第4節で説明したように、感情を表す語および特徴や状態といった特性を表す語には段階性^{スケール}の把握ができる。「とても」の係り先が名詞の場合を考察してみると、「楽しみ」「ご満悦」「ショック」「疲れ気味」などは感情を表す名詞だと考えられ、「近未来」「大勢」「左右対称」「仲良し」「金持ち」などは特性を表す名詞だと考えられる。そこで、今回収集した係り先が名詞の87例を感情名詞・特姓名詞の観点から分類してみた。さらに、打ち消しの形式と共起する場合が多くみられるので、打ち消しであるか否かについても分類の基準に加わった。得られた結果を表3に示す。

(6)のような肯定文の場合、特姓名詞と感情名詞の割合は概ね拮抗しているが、打ち消しの形式が伴う場合は特姓名詞のみである。特に、打ち消しの形式が伴う用例は全体の6割近く占めている点は目を引く現象である。

肯定文の場合、感情名詞でも特姓名詞でも、形容詞に近い性格が伺えて、

相対的に名詞の意味を捉えることによって段階性^{スケール}が生じるのであろう。例えば、感情名詞として扱う「楽しみ」は「楽しみだ・楽しみじゃない」というふうに相対的に楽しみを捉え、「とても楽しみだ」「まあまあ楽しみだ」「あまり楽しみじゃない」「全然楽しみじゃない」というように段階的に把握することができるため、程度の読みができるのである。一方、特姓名詞として扱う「近未来」も「近未来だ・近未来じゃない」のように相対的に捉えることができ、「とても近未来だ」「まあまあ近未来だ」「あまり近未来じゃない」「全然近未来じゃない」という段階性^{スケール}が認められる。

表3 係り先が名詞の場合の低位分類

	実数	%
肯定・特姓名詞	16	18.4%
肯定・感情名詞	21	24.1%
否定・特姓名詞	50	57.5%
否定・感情名詞	0	0.0%
合計	87	100%

また、一般的に程度修飾を受けない傾向にある名詞でも相対的に捉えることによって程度修飾を受けることが可能である。例えば、「とても金持ちだ」に比べて、「とても教室だ」の座りが悪く、文脈によるフォローがないと言にくい。ただし、「そちらのスペースは仕切りもなければ座るところもなく授業はしづらいだろうが、こちらの会議室はホワイトボードもあって、椅子やテーブルもあってとても教室だ」というふうに文脈を作れば、幾分座りが良くなり、「この会議室はとても教室らしい」という意味が読み取りやすくなるだろう。つまり、名詞から「○○らしき」を見出し、「○○らしい・○○らしくない」というように相対的に捉えることができる。このような把握によって段階性^{スケール}が生じると考えられる。なお、このような場合の名詞をひとまず特性名詞と考える。

ここで検討した特性名詞と感情名詞は形態的には名詞であるが、意味的には形容詞に近いことが言える。しかし、打ち消しの形式を伴う場合は事情が異なるようである。「とても」の係り先が名詞で、なおかつ、打ち消しの形式を伴う用例は、50例あり、すべて特性名詞である。以下はその一例である。

- (8) たとえば吉田松陰などは、海外を知りたいと密出国を図って、ペリーの船に乗りこんで行ったりしているから、とても攘夷論者じゃありません。
(BCCWJ『お墓曼陀羅』)

(8)は吉田松陰を攘夷論者に位置づけることを強く否定している。強く否定しているという点からいえば、程度のニュアンスがあるように思われるが、これまでのとおり、「とても○○」「まあまあ○○」「あまり○○ない」「全然○○ない」のパラフレーズを作ることができない。

- (9) ?? 「とても攘夷論者じゃない」「まあまあ攘夷論者じゃない」「あまり攘夷論者じゃなくない」「全然攘夷論者じゃなくない」

「攘夷論者じゃない」自体はすでに打ち消しの「じゃない」があるので、「あまり○○ない」「全然○○ない」など打ち消しと呼応する副詞があるフレーズにいれると座りが悪い。(9)では、「とても」は「攘夷論者じゃない」に係ると考えられる。このように考えれば、「とても+名詞+じゃない」は否定形をとっているが、否定形の「じゃない」のスケール^{スケール}は名詞までで、「名詞+じゃない」つまり「攘夷論者じゃない」が一まとまりだと思われる。この否定の一まとまりからある種の段階性^{スケール}を見出す。いってみれば、「どのぐらい攘夷論者じゃないか」という段階性^{スケール}であろう。この否定の段階性^{スケール}に対して、「とても」でもって

その程度の高さを示す。

一方、「とても」の係り先が副詞の場合、同じく感情副詞と特性副詞に分けられる。また、打ち消しの形式と共起するか否かについても確認した。結果は表4である。

まずは、否定文の用例がないことが特徴的である。そして、用例は特性副詞に偏る傾向も強いことがいえる。(7)で説明したように本稿では「とても」の文中における修飾機能によって分類を行う。感情副詞としてカウントされる例は、「(とても) 不安に」が2例あり、ほかに、「楽しく」「熱心に」「尊く」「気楽」「ありがたく」がある。一方、特性副詞として扱う例は「大きく」「猛烈に」「受容的」「丁寧に」「柔軟に」「ゆっくり」などがある。

表4 係り先が副詞の場合の下位分類

	実数	%
肯定・特性副詞	51	87.9%
肯定・感情副詞	7	12.1%
否定・特性副詞	0	0.0%
否定・感情副詞	0	0.0%
合計	58	100%

感情副詞・特性副詞に分けられる点からも分かるように、副詞の表す感情や特性を相対的に捉えられることによって段階性が生じると考えられる。連用修飾という機能から副詞としているが、形容詞の性格が色濃く残っている。また、肯定文の用例しか観察できない点も「とても」の係り先が形容詞の場合と共通している。

この節では、「とても」の係り先が名詞の場合と、副詞の場合を考察した。共通点として、意味的には形容詞と近いことと、肯定文の場合、形容詞と同様に相対的に捉えることによって段階性が生じることがわかった。一方、相違点は名詞の場合だけ、打ち消しの形式を伴う否定文が観察される点である。なお、否定文の段階性の生じ方は肯定文と異なるようである。

6. 動詞に係る場合

今回の調査では、「とても」の係り先は形容詞に続き、動詞も多く観察され、616例を得られた。動詞の用例をさらに工藤真由美(1995)に従って下位分類をした。工藤真由美(1995)では、アスペクトの対立の有無によって動詞分類を行っている。以下に工藤真由美(1995:69-78)の分類および一部の例を提示する。

(10) (A) 外的運動動詞

(A・1) 主体動作・客体変化動詞〈内的限界動詞〉：あたためる、あて

る、おとす、あげる、きづく、あげるなど。

(A・2) 主体変化動詞〈内的限界動詞〉：かぶる、あがる、かがむ、けっこんする、あたたまる、うわる、おちる、あがる、あらわれるなど。

(A・3) 主体動作動詞〈非内的限界動詞〉：うごかす、いじる、かじる、あう、かぐ、いう、あそぶ、いとなむ、うごく、かがやくなど。

(B) 内的情態動詞

(B・1) 思考動詞〈非内的限界動詞〉：おもう、いのるなど。

(B・2) 感情動詞〈非内的限界動詞〉：あきらめる、あきあきするなど。

(B・3) 知覚動詞〈非内的限界動詞〉：あじがするなど。

(B・4) 感覚動詞〈非内的限界動詞〉：いたむ、しびれるなど。

(C) 静態動詞

(C・1) 存在動詞：ある、存在するなど。

(C・2) 空間配置動詞：そびえているなど。

(C・3) 関係動詞：あたいする、いみする、にているなど。

(C・4) 特性動詞：あますぎる、にあり、ありふれているなど。

分類の結果を表5に示す。3割強も占めるのは主体動作動詞の場合である。一般的に、程度副詞は動作動詞に係らないと言われている。例えば、「とても動かす」や「とてもいじる」などの座りが悪い。

主体動作動詞の用例が多く見られる理由は、「ている」形や可能形の使用である。例えば、「とても迷う」では座りは悪いが、「とても迷っている」なら自然である。それから、「とても評価する」ではなく、「とても評価できる」という形で用いられる点も理由

としてあげられる。そして、打ち消しの表現を伴う例も多くみられた。もちろん、「とてもできない」というように、可能形の否定も観察される。そこで、

表5 係り先が動詞の場合の下位分類

	実数	%
主体動作動詞	225	36.6%
感情動詞	99	16.1%
主体変化動詞	88	14.3%
思考動詞	74	12.0%
特性動詞	50	8.1%
存在動詞	44	7.2%
知覚動詞	16	2.6%
関係動詞	12	2.0%
感覚動詞	7	1.1%
主体動作客体変化動詞	1	0.2%
合計	615	100%

それぞれの動詞下位分類はどういった形で使用されているかを調査した。結果を以下に示す。

表6 動詞の下位分類の使用と形式

主体動作	原型	37		
225 例	否定	159	否定・ている	2
	ている	31	否定・可能	135
	可能	141	可能・ている	0
感情	原型	57		
99 例	否定	2	否定・ている	0
	ている	36	否定・可能	2
	可能	6	可能・ている	6
主体変化	原型	64		
88 例	否定	11	否定・ている	0
	ている	11	否定・可能	8
	可能	10	可能・ている	0
思考	原型	10		
74 例	否定	59	否定・ている	0
	ている	1	否定・可能	54
	可能	58	可能・ている	0
特性	原型	11		
50 例	否定	32	否定・ている	1
	ている	7	否定・可能	0
	可能	1	可能・ている	0
存在	原型	34		
44 例	否定	9	否定・ている	0
	ている	0	否定・可能	8
	可能	8	可能・ている	0

知覚	原型	1		
16 例	否定	12	否定・ている	0
	ている	0	否定・可能	12
	可能	15	可能・ている	0
関係	原型	7		
12 例	否定	0	否定・ている	0
	ている	5	否定・可能	0
	可能	0	可能・ている	0
感覚	原型	6		
7 例	否定	0	否定・ている	0
	ている	1	否定・可能	0
	可能	0	可能・ている	0
主体動作客体変化	原型	0		
1 例	否定	1	否定・ている	0
	ている	0	否定・可能	1
	可能	1	可能・ている	0

表 6 の見方であるが、主体動作動詞でいうと、225 例を収集したので、それを動詞名の下に書いてある。225 例のうち、否定形でも「ている」形でも可能形でもないものを原型としてその数を示す。原型の下に、否定形・「ている」形・可能形の数をそれぞれ示しているが、「歩けない」のように可能形否定は、「否定・可能」としてカウントし、その数を右の欄に示す。また、否定形・「ている」形・可能形の 3 つを同時に満たす用例が見当たらなかったのも、原理的に「否定・ている」「否定・可能」「可能・ている」の 3 パターンしかない。

既述したように、程度修飾の副詞は動作動詞に係らない傾向にあることが知られているが、今回の調査で「とても」の係り先として主体動作動詞が最も多いとは言え、表 6 にあるように、225 例のうち「否定・可能」の形は 135 例もある。つまり、ほとんどの主体動作動詞は以下のように「否定・可能」形である。(11) また、地方によっては、かきの話がおいもの話になっています。まるで

石みたいでとても食べられないおいも。(BCCWJ『私たちの日本史』)

(11)は、「食べられる」という能力のなさを「とても」でもって表現している。「食べられる・食べられない」で捉え、食べる能力の有無という段階性を生じさせるというふうに考えることができる。そして、「とても」は食べられなさを表すと考えられ、つまり、否定の高程度を示すのである。ただし、「とても食べられる」の座りがよくないという点からみると、動詞が内包している段階性において「とても」は肯定の高程度を示さず、否定の高程度を示す傾向にあるようである。

「否定・可能」形が多く観察されるのは主体動作動詞のほかに、「信じられない」「理解できない」「思えない」「考えられない」などの思考動詞があげられる。

(12)夜の授業が終わった後、キャンパスで不安と怒りを共有した私たちに
とって、それはとても他人ごととは思いませんでした。(BCCWJ『異文化論への招待』)

(12)にある思考動詞についても、「とても」が「思えない」に係り、思えなさという否定の高程度を表すと考えられる。これは、前述の「食べられる」と同様で、「思える・思えない」というふうに相対的に動詞が表す事象を捉えることによって段階性を生じるが、その段階性において否定の高程度を「とても」でもって表す。

また、全体的に数が少ないが、存在動詞と知覚動詞もほぼすべての用例が「否定・可能」形である。存在動詞の「否定・可能」形の用例は8例あるが、すべて「いられない」である。

(13)「たいこだ。金のたいこ。」 明るすぎて、とても見つめてはいられませ
ん。(BCCWJ『クレヨン王国森のクリスマス物語』)

「いられない」の用例は(13)のようにすべて「～ていられない」の補助動詞である。また、知覚動詞「否定・可能」形に関しては、今回観察された12例はすべて「見えない」である。「とても」と共起する場合、今回の調査結果では「とても見える」がみられず、「とても見えない」しかみられなかった。ただし、「否定・可能」形ではないが、知覚動詞は「見える」のほかに「(とても)考えられる」「(とても)臭う」も観察された。

(14)白いポロシャツを着た小柄な男で、とても暴力を振るようには見えな
かった。(BCCWJ『4teen』)

(14)の知覚動詞の「否定・可能」形においても、「とても」は「見えない」

全体に係っている。以上の(11)～(14)から、「否定・可能」形では、動詞が表す事象を「肯定・否定」というふうに相対的に捉え、段階性^{スケール}を生じさせるだと考えられるが、この場合の「とても」は否定の高程度を表す。

主に「ている」形で出現するものは感情動詞と関係動詞である。感情動詞に関しては、具体的には、「とても驚いている」「とても気に入っている」「とても悩んでいる」「とても嫌がっている」などが確認できた。

(15) 私は先日、カスタードシューとチョコシューのセットを買いましたが、皆さんが絶賛するほど美味しいとは思えませんでした。濃厚ミルクシューを買えばよかったととても後悔しています。(BCCWJ『Yahoo! 知恵袋』)

(15)は感情動詞の「ている」形の例であるが、文脈から先日に買い物に失敗したと思ひ、後悔の気持ちでいることが分かる。感情動詞の「ている」形は状態を示しているように考えられるため、形容詞に近いといえる。主に「ている」形で出現するものとして、感情動詞のほかに関係動詞がある。関係動詞の用例数は少ないが、「ている」形で用いられた5例はすべて「似ている」である。

(16) 私も似てると思って、探したらありました!! サビの部分しか使っていないと思うんですが、Spice Girlsの「wanna be」にとても似てます。(BCCWJ『Yahoo! 知恵袋』)

「似る」は動詞であるものの、「似る」の形で使われることがほとんどなく、「似ている」が主に使われる形である。これはやはり「似ている」の「ている」形でもって状態を示しているからであろう。(15)(16)で検討した感情動詞と関係動詞は「とても」の程度修飾を受ける際に「ている」形になることが多く、これは「ている」形が状態を示すためである。

「とても」と共起する際に、否定形を多用するのは特性動詞である。「とても合わない」と「とても足りない」が一例ずつ確認できたが、それ以外の30例は「とても～ない」である。

(17) 一瞬、先生をどなりつけてやろうかという衝動にかられたが、とても勇気がなかった。(BCCWJ『人間の絆』)

(18) 研究室にいた自分なのに、目を覚ましたら突然都内のホテルにいるのだから間違いなく拉致だ。そして、この場所からとても解放してもらえないこの状態は監禁だ。(BCCWJ『菴冬』)

「とても～ない」の用例は(17)のような「とても～がない」のほか、(18)のような「とても～そうにない」が見られた。(17)でいえば、「とても」が勇気

のなさを修飾しているし、(18) でいえば、「とても」が解放される可能性の低さを修飾している。

これまで検討したものと違い、原型¹を主に使用する動詞は主体変化動詞と感覚動詞があげられる。主体変化動詞に関しては、具体的に「とても変わる」「とても伸びる」などが確認できているが、もっとも多いのは「とても～なる」という文型をしようするものである。

(19) コメントしてくださる皆さんの暖かいお言葉はとても励みになり感謝しています。(BCCWJ『Yahoo! ブログ』)

(20) 1時間ほどで雨は止みました。雨上がり、とても涼しくなりました。
(BCCWJ『Yahoo! 知恵袋』)

(19) では、「とても」が励みに係り、「とても励みに」が一まとまりとする考え方と、「とても」が「なる」に係るとする考え方があるだろうが、本稿は後者の考え方を取る。同じタイプの用例として、「とても勉強になる」「とても世話になる」などがある。ただし、(20) を合わせてみると、前者の考え方も一理あるように思われる。(20) では、「とても」が「涼しく」に係り、「とても涼しく」が一まとまりとすることもできそうである。

今回は後者の考え方を採用した理由は2つある。第一に、「とても励みに」や「とても勉強に」「とても世話に」などの座りが悪いからである。つまり、前者の考え方を取る時、(20) のようなタイプに対しては解釈ができて、(19) のようなタイプに対してはよい解釈ではないからである。第二に、意味からして(19)(20) の「とても」は「結果状態の程度 (変化後にどの程度変化したか)」を修飾しているからである。佐野由紀子 (1998) では、主体変化動詞と程度副詞の共起関係を考察し、「とても」などの純粹程度副詞が主体変化動詞と共起する場合、「結果状態の程度 (変化後にどの程度変化したか)」を修飾すると指摘する。(19) は、温かい言葉をかけてもらったことによって、前向きになった。「とても」は「どの程度前向きになったか」を表している。(20) では、雨によって気温が下がったが、「とても」は「気温がどの程度下がったか」を表している。また、「とても～なる」が示す程度^{スケール}というのは、同じく相対的に捉えることによって生じた段階性にあるものだと考える。(19) でいうと、「励みに

¹ 原型は「否定形でも「ている」形でも可能形でもない」形のことを指すので、終止形や連体形などはもちろん、いわゆるテ形やタ形も含まれている。

なる・励みにならない」で捉える場合、「とても励みになる」「まあまあ励みになる」「あまり励みにならない」「全然励みにならない」など段階的に程度性が異なる。また、(20)の「とても涼しくなる」についても同様に考えられる。

主体変化動詞が「とても」による程度修飾を受ける場合、主に原型を使用するという調査結果は、今回「とても～なる」の用例がほとんどであることの影響を受けていると考えられる。「とても～なる」はひとつの定型化した表現であり、結果的に原型を多く使用することになった。

もう一つ主に原型で現れるのは感覚動詞である。感覚動詞は、「とても感じる」が1例確認された以外に、残りの4例は「とても疲れる」である。

(21) よく知らない相手との会話は、それだけ気を使いますから、とても疲れるものです。(BCCWJ『営業のトッププロが教える「その一言」で相手の気持ちを動かす技術』)

感覚動詞は(16)で検討した関係動詞と同様に、状態を表すものである。ただし、関係動詞は「似ている」というように「ている」形で状態を表すが、感覚動詞の「疲れる」は終止形(原型)で状態を表す。いずれも形容詞に近いものだと見える。形容詞に近いという点からでも、感覚動詞も相対的に捉えことで段階性を生じさせるのだと思われる。

この節は、「とても」と共起する動詞を検討した。動詞の分類によって否定形の使用に偏るものや、「ている」形に偏る傾向がみられるが、形態の選択は動的な意味を持つ動詞をより状態に近づけるための選択といえようである。また、打ち消しの形式と共起する場合、原則的に「とても」が否定の高精度を表すことが分かった。

7. まとめ

本稿はできるだけ網羅的に「とても」と共起する語を検討した。先行研究に言及がある形容詞だけではなく、名詞や副詞や動詞についても検討した。品詞は異なるが、「とても」による程度修飾を受ける語には次の共通点が見られた。

(22) 文中における文法機能で判断された品詞の分類と関係なく、意味的に状態を表すという点からいえば、「とても」の修飾先は基本的に形容詞に近い。

(23) 修飾を受ける語の意味を相対的に捉えることで、^{スケール}段階性が生じ、その段階において様々な程度が認められる。

これまでは、程度修飾を受ける語の詳細な調査があまりされてこなかった。そのため、調査の手法や対象などに改善の余地があると思われる。特に、各品詞に下位分類について詳しく検討することが望ましいだろう。本稿は形容詞を特性形容詞・感情形容詞に分けたが、八亀裕美(2003)は時間的限定性や認識・評価といった基準を導入して形容詞をA,B,C,D,Eの5つのグループに分けている。(22)で述べたように、基本的に「とても」の程度修飾を受ける語は状態を表す。これはつまり、時間的に終了限界点(場合によって開始限界点)を有しないことを意味する。この点を含めて考えると、時間的限定性を分類基準のひとつとする八亀裕美(2003)の分類を導入すれば、程度修飾がある文における、状態と時間的限定性の関係がみえてくることが期待できそうである。

また、程度副詞ではないが、井本亮(1999)では程度修飾の用法を持つ「ほど」と動詞の修飾関係を網羅的に調査している。程度副詞だけではなく、「ほど」「くらい」などの副詞節も程度修飾を行う。従って、程度副詞・程度の副詞節を対照的に検討することができれば、程度修飾の内実を正確に把握することができるだろう。以上述べたことを今後の課題としたい。

参考文献

- 井本亮(1999)「『ほど』構文の解釈と主文の有界性について―述語動詞句の動詞分類を中心に―」『筑波日本語研究』vol.4,pp.42-70,筑波大学文芸・言語研究科
- 工藤浩(1983)「程度副詞をめぐる」『副用語の研究』pp.176-198,明治書院
- 工藤真由美(1995)『アスペクト・テンス体系とテキスト―現代日本語の時間の表現』ひつじ書房
- 工藤真由美(2000)「否定の表現」『時・否定・取り立て』pp95-153,岩波書店
- 佐野由紀子(1998)「程度副詞と主体変化動詞との共起」『日本語科学』3,pp.7-22,国書刊行会
- 蔡薰婕(2019,近刊)『現代日本語文の程度修飾と数量修飾の体系』,日中言語文化出版社
- 仁田義雄(2002)『副詞的表現の諸相』くろしお出版
- 八亀裕美(2003)「形容詞の評価的意味と形容詞の分類」『阪大日本語研究』15,pp.13-40,大阪大学大学院文学研究科日本語学講座
- 「現代日本語書き言葉均衡コーパス通常版」<https://chunagon.ninjal.ac.jp/bccwj-nt/search> (2018.6.23 アクセス)

論「TOTEMO (ととも)」所修飾的語彙

蔡 薰 婕

本研究透過調查「TOTEMO (ととも)」所修飾的語彙，藉以釐清程度修飾的各種面相。接受程度修飾的語彙必定內含某種程度性，然而「何謂程度性？」並不是一個能夠簡單回答的問題。要回答這個問題，就必須仔細觀察做程度修飾的語彙與接受程度修飾的語彙。本調查選定最典型的程度修飾語「TOTEMO (ととも)」，觀察哪些語彙能夠接受「TOTEMO (ととも)」的程度修飾，透過廣泛的調查，相信能對程度修飾有更深刻的理解。本調查利用 BCCWJ 收集到 16,414 句「TOTEMO (ととも)」的例句，從中亂數抽取 2,000 進行分析。

分析的結果，61.2% 的「TOTEMO (ととも)」都是修飾形容詞。這個調查結果跟過去的先行研究的分析是一致的。非常有趣的是，佔調查結果第二位的是動詞，為 30.8% 的百分比。過去的研究多半指出，程度修飾的副詞原則上不能夠修飾動詞，特別是具有意識性的動作動詞。但本次的調查結果顯示，接受程度修飾的動詞裡有 36.6% 的比例是具有意識性的動作動詞。意識性的動作動詞的例句頻繁出現的原因在於：接受「TOTEMO (ととも)」的程度修飾的意識性動作動詞多為可能形，否定形，或是 TEIRU (ている) 形。這三種形態多半表示狀態，意即，與其說是動詞本質上更接近形容詞。另外，這次的調查也發現「TOTEMO (ととも)」雖為副詞，但它也能夠修飾名詞與副詞。修飾名詞與副詞的例句都不超過 10%，可說是非典型的程度修飾。但仔細觀察例句會發現，接受程度修飾的名詞與副詞皆為表示某種情感或是特性，狀態。意即，品詞雖為名詞或副詞，但所表示的含意更接近形容詞。總歸來說，雖然「TOTEMO (ととも)」並不如一般所認知的只修飾形容詞，但即便修飾動詞，名詞或副詞，基本上都是表示某種狀態或是情感的動詞，名詞或副詞，從這些詞彙在含意上表示某種狀態或是情感這點來說，跟形容詞非常接近。